

竹内原子力委員会委員のヴェトナム出張について（報告）

平成 15 年 5 月 13 日

事 務 局

1．出張概要

ヴェトナム原子力委員会とホーチミン市科学技術環境局主催の原子力平和利用展示会に代表団の顧問として参加するとともに、ヴェトナム政府閣僚及びホーチミン市幹部と意見交換等を行った。

代表団は、西室東芝会長（団長）、竹内原子力委員会委員（顧問）、濱田電事連専務理事（副団長）、日本原子力研究所、核燃料サイクル開発機構、日本原子力発電、東芝、日立製作所、三菱重工業、日本原子力産業会議から構成。

2．出張者及び日程

（１）出張者：竹内 原子力委員会委員

池田 内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付上席科学技術政策調査員

（２）日 程：平成 15 年 4 月 27 日（日）～ 5 月 1 日（木）

・ 4 月 28 日

タン ヴェトナム原子力委員会委員長との会談

チェット ホーチミン市共産党委員会書記との会談

ハイ ホーチミン市人民委員会委員長との会談

・ 4 月 29 日

原子力平和利用展示会開会式に出席

ク 工業副大臣との会談

・ 4 月 30 日

放射線技術研究開発センター視察

フェイ 科学技術副大臣との会談

3．原子力平和利用展示会（4 月 29 日～ 5 月 3 日）の結果概要

・ 地方政府、産業界、一般公衆、メディアなどを対象に、原子力平和利用への正しい理解を図ることを目的として開催。

・ 平成 13 年にハノイ市で第 1 回目を開催。今回、ホーチミン市において 4

回目を開催。

- ・ 入場者：約11,000人、うち学生が約8割。予定を大幅に上回る人数。
- ・ 原子力発電の他、医療、工業、農業分野における放射線利用のこれまでの成果が展示、説明がなされた。また展示会の主要行事としてセミナーが開催され、原研高崎研の久米次長による「放射線の工業・農業利用について」の講演などが行われた。
- ・ 開会式にはベトナム側からは、クー 工業副大臣、ハイ ホーチミン市人民委員会委員長、タン 原子力委員会委員長などが出席。また、日本側からは、代表団の他、服部大使、神谷総領事が出席。
- ・ その他：TV、新聞などから数多く報道された。

4．意見交換結果

(1) タン 原子力委員会委員長との会談

- ・ タン委員長より以下の発言があった。

今回のベトナム訪問を心より感謝。ベトナムでは、2020年頃には原子力発電を導入したいと考えており、工業省がプレFS（予備事前調査）を行っている。ベトナム原子力委員会では、「原子力発電長期戦略」と「原子力発電に対する国民の関心事項（技術、安全性、使用済燃料の管理・処理など）」の検討を行っており、今年末までに、政府に報告する予定。

原子力の平和利用に対する国民の理解が重要であることを、政府も認識している。この中で、日本の協力に対する評価は高い。2002年の原子力発電についての世論調査（15,500人）では、賛成が73%だった。

- ・ 日本側より以下の発言があった。

西室団長：プレFSに日本が協力させてもらえて光栄。更に、協力を継続させてもらえれば、大変嬉しい。ベトナム原子力委員会と覚書を結んで以来、日本とベトナムの交流は、2,500人日になっている。一般国民の原子力理解は大事な事。その面からも協力を続けて行きたい。

竹内委員：日本の原子力委員会と貴国原子力委員会とは、FNCAなどでお付き合いしてきている。放射線利用を、ベトナムが熱心にやっていることを、承知している。ベトナム政府が、理解獲得のため努力されていることに敬意を示したい。

(2) チェット ホーチミン市共産党委員会書記との会談

- ・ チェット書記より以下の発言があった。

今回のホーチミン訪問と原子力平和利用への日本の協力を感謝している。

日本は、ヴェトナムにとって信頼できるパートナーと評価されている。信頼の高いことは、政府だけでなく、国民の中にも深まっている。原子力発電は、ヴェトナムの発展のために重要と認識しており、以前から実施したいと考えていた。ヴェトナムは、日本と同様、国が狭く人口が多い。少ない資源を効率的に使うことが大切と認識している。日本は、この観点から良い参考となる。原子力発電が、ヴェトナムにおいて、早く実現することを期待している。

(3) ハイ ホーチミン市人民委員会委員長との会談

・ハイ人民委員長より以下の発言があった。

ヴェトナムの社会発展に対する日本の貢献に感謝している。日本とヴェトナムの友好関係は、ますます深まって行くだらう。量だけでなく、質についても深まってきている。日本の技術は高度で、経営管理も進んでいる。ヴェトナムにも大いに参考となる。原子力発電に関心を払って、努力していきたい。

(4) クー 工業副大臣との会談

・日本側より以下の発言があった。

西室団長：ヴェトナムの最大の都市で開催できることを嬉しく思っている。朝の展示会開会式の状況を見て、必ず成功すると信じている。日本の経験が、ヴェトナムの原子力発電の検討の役に立てればと心から願っている。

竹内委員：本日、若い学生達が、熱心に展示会場を見学している姿を見て感動した。将来の原子力に対し力強いものを感じた。

・クー 工業副大臣より以下の発言があった。

日本は原子力の経験、特に発電に対しては、素晴らしいものを持っている。ヴェトナムが原子力を行う場合、海外からの協力が不可欠。経験や知識面での日本からの協力を期待している。将来、ヴェトナムのエネルギー供給は、需要を満たすことができない。これに答えるものとしては、原子力発電以外にはない。このプロジェクトを早く始めないと、間に合わなくなると政府の指導者に言って来た。今後も、工業省、科学技術省、ヴェトナム原子力委員会に力を貸して欲しい。

(5) フェイ 科学技術副大臣との会談

・竹内委員より以下の挨拶があった。

昨日の展示会場での若者の真剣な目つきを見て、ヴェトナムが、若い人の

人的資源を持った国であることが確信できた。

- ・ フェイ副大臣より以下の発言があった。

日本のこれまでの協力に感謝。政府や共産党幹部の原子力施設訪問について、日本側の受入れをお願いしたい。

5．放射線技術研究開発センター視察（ホーチミン）

- ・ ヴェトナム原子力委員会傘下の施設。1999年3月に、20万CiのCo-60 線照射施設（ハンガリー製、最大容量100万 Ci）で運転を開始。資金は、IAEAの援助、政府（科学技術省）資金、銀行からの融資。
- ・ 2000年3月に、線源を40万Ciに増強し、食品照射（冷凍エビ、カエル、魚等：国内及び輸出用）、生薬の殺菌、医療用品（ガーゼ、ゴム手袋等）の滅菌などを実施している。現在のスタッフは約30名。
- ・ 電子線加速器の将来設置を検討しており、政府に要請中。

以 上